

外部評価を受けて



## ～外部評価を受けて～

奈良先端科学技術大学院大学は、今年創立 18 周年を迎えます。平成 16 年の国立大学法人化に伴い、創立時の建学精神を継承し、第 1 期中期目標・中期計画を策定しました。本学の基本的な目標である、先端科学技術研究分野における国際競争力ある世界最高水準の大学に向け、本学が取り組んできた大学運営と教育研究活動の成果について、自己点検・評価を行うとともに、4 名の外部評価委員による検証をお願いいたしました。評価委員の皆様からは、高い評価、改善の御指摘、また御助言など、忌憚のないご意見をいただきました。政治、経済にとどまらず、教育においても急速にグローバル化の波に見舞われる時代において、学部を持たない高等教育機関としての本学の現状を再確認し、平成 22 年度から始まる第 2 期中期目標・中期計画の中に反映させ、本学を世界に認知された教育研究拠点とすることを目標に教育研究活動に取り組んでいきたいと思えます。

教育については、特に活発なご議論をいただき、6 つの観点からの検証結果と 7 つの事項についての御助言をいただきました。根底的なテーマとして、グローバル化社会に対応した大学院教育の在り方を中心にご意見をいただいたと思えます。このことは、教育振興基本計画においても、「大学院教育の組織的展開」や「国際化」などのキーワードにより、各大学にその対応を求めています。

これまで本学は、大学院教育のフロントランナーとして、「大学院教育支援プログラム」等を活用し、コース制の導入、多彩な授業カリキュラムの構築など、大学院教育の実質化を組織的に展開してきました。今後も引き続き 3 研究科が密接に連携した教育プログラムを進めるとともに、講座におけるきめ細やかな研究指導の有効性を再検証し、本学独自の教育体制を構築します。

大学の国際化についても、留学生を積極的に受け入れるため教育研究環境を整備するとともに、海外の大学・研究機関との連携による国際化教育プログラムの実質化を進めます。その際、英語発表能力だけでなく、国際社会をリードする能力の涵養に向けた取組を行います。

研究については、その成果について高い評価をいただき、3 つの観点からの検証結果をいただきました。ここでも国際化が問われており、特に外国人研究者の受入についてご指摘をいただきました。世界に開かれた大学となるため、重要な課題であると認識しており、外国人教員やポスドクの積極的な採用、海外研究者の招聘などに取り組んでいきます。また、先端科学技術分野に特化した大学院大学として、新領域の開拓を求めるとともに御助言をいただきました。現在、平成 21 年度中に新研究棟の整備を計画しており、これを活用した融合領域・新領域への組織的な挑戦を開始します。

管理運営については、6 つの観点から検証結果をいただきました。概ね学長のリー

ダーシップが図られていると判断していただきましたが、これからの教員人事戦略の重要性についてご意見を賜りました。大学として研究動向を踏まえ、中長期的な視点から検討を行い、国内外から卓越した教員を獲得してまいります。また、広報の重要性についてもご指摘いただきました。世界レベルで各大学が優秀な学生の獲得を行う中、本学の国際的な認知度の向上に向け、広報体制の見直しを行い、戦略的な広報活動を展開します。

上記を含め、その他、検証いただき明らかになった事項について、本学がどのように伸ばしていくべきか、又は改善していくべきか、真摯に検討し、次期中期目標・計画に反映するなど、一つ一つ実現していく所存です。

最後になりましたが、全学外部評価会議委員の方々には、ご多忙にもかかわらず、本学の自己点検・評価書をご精読いただき、貴重なご意見を頂戴いたしましたこと心から御礼申し上げます。また今後とも本学の発展に向け、ご指導いただければ幸いです。

平成 21 年 1 月  
奈良先端科学技術大学院大学長  
安 田 國 雄